

派遣期間中の行程（武漢）

平成31年3月17日（日）～3月24日（日）
大分市立明野中学校

3月17日（日）

肌寒く風の強い朝、別府北浜バス停に集合をした生徒たちは、教育委員会の方々、保護者の方々、明野中学校の教員に見送られバスに乗り込み、福岡空港へと向かいました。一週間家族と離れて生活することに不安になる生徒もいるのではないかと心配をよそに、バスでの移動中は、学校の話やこれから訪れる中国の話をしながらのにぎやかな時間となりました。出国カウンターでチェックインを済ませ、国際線（福岡⇒上海）に搭乗し、2時間ほどで、上海（浦東）空港に到着しました。会話もできず、中国語が読めない状況での空港内移動には、悪戦苦闘しました。しかし、委員会の方から事前にいただいていた「移動のための上海空港内の写真」があったおかげで、何とか国内線搭乗口までたどり着くことができ、大変感謝しています。飛行機の中では、差し入れにいただいたパンや機内食で空腹も満ち、さらに2時間の飛行後、目的地武漢空港に到着しました。



（出発時の車内より）



（福岡空港搭乗口前）



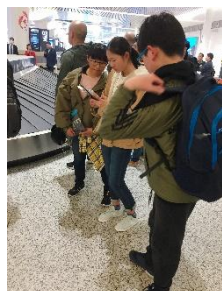
（福岡⇒上海へ）



（楽しみにしていた機内食）



（指紋認証無事終了！）



（ターンテーブルで荷物を受け取った後は……。）

到着ロビーには、ホストファミリーの皆さんや武漢外国語学校の先生方が生徒の名前入りの大きなプラカード



（伊藤梨楓さんファミリー）



（岩田倫さんファミリー）

ドを持って笑顔で明るく迎えてくださったので、長旅の疲れも吹き飛びました。また、昨年6月に明野中学校へ留学していた生徒さんたちが家族と一緒に来てくださり、9ヶ月ぶりの再会を喜んでいました。しばらく空港で話をした後、皆さんはそれぞれの家庭へと帰って行きました。初日の報告は終了しました。

翌日 生徒は7時30分に学校に集合。準備していただいた高崎山のキャラクター「たかもん」がプリントされたおそろいのフリースを着て集合することになっています。

いよいよ武漢での生活が始まります！



（松本航輝さんファミリー）



（後藤紫草さんファミリー）



（小野由佳里さんファミリー）



（武漢外国語学校の先生方と）

3月18日(月)

武漢外国語学校での1日目がスタートしました。

校庭で行われた「旗揚式」に参加し、全校生徒の前で自己紹介をしました。生徒たちは、「ニーハオ」ではじめ、自分の名前を中国語で言ってみましたが、先生方や生徒の皆さんに温かい拍手で迎えていただきました。

教室の背面黒板は歓迎のイラストで飾られており、日本語、フランス語、ドイツ語を専攻している生徒たちによる、2年生のクラスでの歓迎会が行われました。最初の授業は、日本でも学習した漢詩「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」でしたが、隣の席に座ったホストファミリーの生徒に通訳してもらいながら、中国語で受講しました。1時間の中で中国語の読み方を暗唱できた生徒もいました。



(「旗揚式」での自己紹介)



(歓迎会)



(李白の漢詩)



(中国語の音読)



2時間目は、筆を使って中国の干支をうちわに描いてみました。その後、会議室で武漢外国語学校の副校長先生から歓迎のお言葉をいただき、先生方や昨年の留学生と記念撮影を行いました。午後は、3年生日本語クラスの生徒たちとの交流ができ、再会を懐かしんでいました。また、グラウンドで1年生の体育活動に参加し、縄跳びや羽根蹴りを楽しみました。多くの人とのふれあいがあった1日が終わりました。

3月19日(火)

昨日、学習した武漢のシンボルでもある「黄鶴楼」と「帰元寺」を1、2年生の生徒8人と一緒に見学しました。武漢外国語学校の「日常生活の心得」に記載されている「誠実で、礼儀正しく人に接する」ことを実践してくれました。特に1年生は、日本語の学習時間が浅いにもかかわらず、心を込めて我々をもてなしてくれました。午後は、アジアで最も大きいというイオンモールでのショッピングでしたが、武漢の生徒たちが日本の生徒の通訳と案内を担当してくれて、自由に館内を買い物したり、食事をしたりして過ごしました。買ったものを片手に笑顔で建物から出てきたときは、距離が縮まったことが見て取れました。生徒たちは、疲れたかと思いきや、「もう一度イオンに来たい。」と口々に言いました。



(バスの中)



(黄鶴楼前で記念撮影)



(帰元寺にて)



(黄鶴楼から見える武漢の街)



3月20日(水)



(校舎内)



(生物の授業)



3日目。

この日は、学校で「数学」と「生物」の授業を受けました。日本語の辞書を準備し、先生が説明したことを日本の生徒たちに教えようと一生懸命な武漢外国語学校の生徒たちの姿が印象的でした。その後は、中国民間で伝統的な手細工の1つである「虎枕(とらまくら)」作りを教わりました。虎は魔除けの役をするだけでなく、子どもがすくすく成長することを願っているのだそうです。生徒の個性が表れた作品ができあがり、お土産にいただきました。



(「虎枕」づくり)



午後は、王嘉駅さんのお母様のクッキングスタジオで、中国のお菓子をこちそうになり、その後で作り方を教えてもらいました。



このお菓子を
作りました



みんなおそろいのエプロンを身につけ、先生のご指導のもと、新たな挑戦をしました。自分たちが作ったお菓子は土産にいただきました。



ホストファミリーの方が迎えに来てくださって、夜の予定を確認しながらそれぞれの家へと帰っていきました。



3月21日(木)



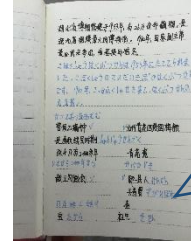
(東湖散策)



この日は、午前中、中国の都市内にある最大の湖、「東湖」を見学しました。遊歩道を散歩しましたが、前回とは違うメンバーだったので、しばらくの間、日本人どうしの会話禁止ミッションを出してみました。すると少人数グループでの交流があちこちで始まりました。

その後、バスで湖北省博物館へ。館内は写真撮影もでき、武漢の生徒から説明を受けながらグループごとに見学をしました。お土産もたくさんいただいたようで、集合時間にうれしそうに見せてくれました。

午後は、楚河漢街で自由行動。すっかり仲良くなった生徒たちは、集合時間確認後の解散と同時にそれぞれ行きたい場所へ移動していきました。



日本
の生
徒
た
ち
に
武
漢
の
生
徒
が
調
べ
て
き
た
メ
モ



3月22日(金)

武漢外国語学校での体験最終日、少し肌寒く感じる中、着替えをして日本語クラスの1年生たちと屋外で「太極拳」を習いました。その後、教室に戻って中国民族楽器の紹介後、中国の歌曲「茉莉花」を皆で歌いましたが、中国のテレビ局の取材があり、緊張してインタビューも受けました。



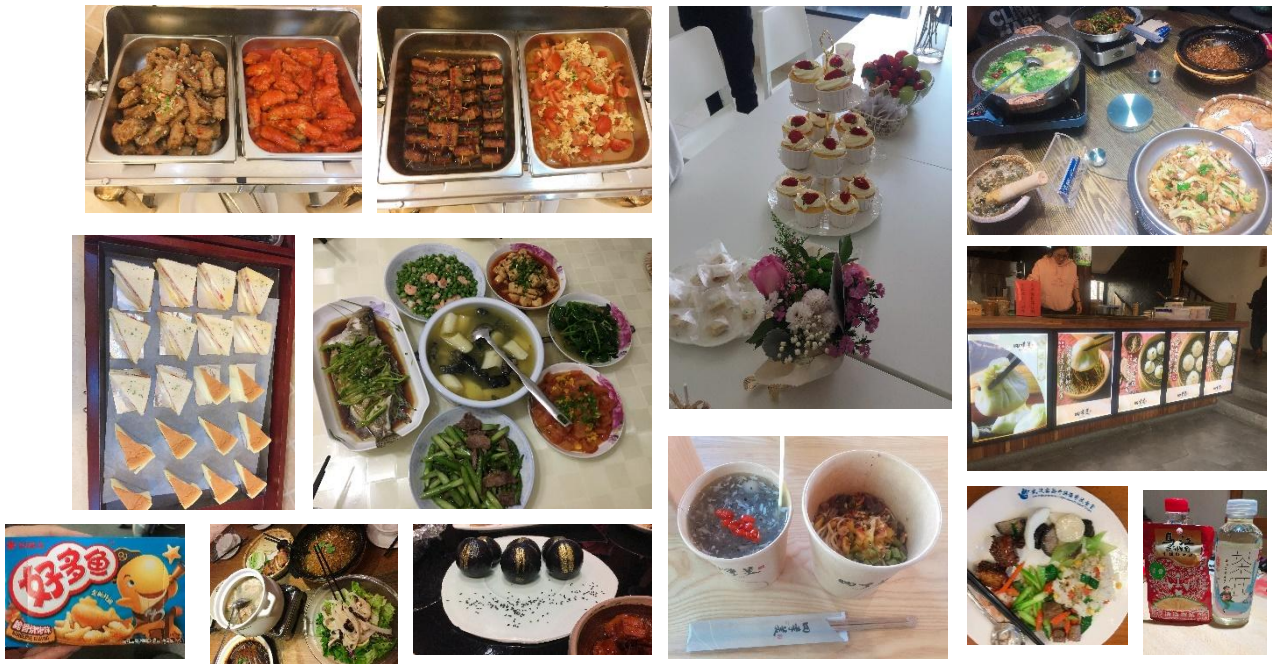
午後は会場を移し、ホストファミリーの方々や武漢外国語学校の関係者合わせて150名が参加して「送別会」を開いていただきました。司会は、昨年明野中学校に留学していた3年生の2人が担当しましたが、日本語が以前にも増して上達していて驚きました。副校長先生の話の後、引率教師のお礼の言葉、明野中学校の生徒たちの感想、1、2年生の歌などがあり、後ろの画面には武漢で活動した映像も流していただき、感動しました。



3月23日(土)

ホストファミリーと過ごす最後の日、生徒たちお気に入りの「イオン」で武漢外国語学校の2、3年生と一緒に過ごす生徒、昨年日本に留学していた3年生と会う生徒に分かれ、それぞれ楽しい1日を過ごしたようです。

1週間、受け入れ家庭の方々に家族のように接していただいたことが、日に日に内容が増えてきた生徒からの報告やその言動・表情から伝わりました。学校では、バイキング形式の昼食を準備くださり、ご家庭でもいろいろなところに食事に連れて行ってくださり、「食」も満たされた1週間でした。



3月24日(日)

武漢空港に12時30分に集合でした。空港まで送ってくださった家族の皆さんや先生方は、私たちの姿が見えなくなるまで見送ってくださいました。旅にも少し慣れ、行きとは逆のルートで武漢から上海へ、上海から福岡、大分へと向かいました。中学校では、校長、教頭先生、家族に迎えられ、挨拶を終え、それぞれの家庭へと帰っていきました。

明野中学校の生徒たちは、靴のまま校舎や教室に入ること、電子黒板が設置されている教室、授業中の生徒の様子など、自分たちのそれとは違う環境に驚きながらも、交流が始まるのに時間はかかりませんでした。滞在中何度も機会があったので、「自分の思いを人前で話すこと」にも慣れました。武漢の生徒の優しさやもてなしの心に感動し、感想では、今後の生活に生かしたいと述べていました。生徒も引率者も素晴らしい経験をさせていただき感謝しています。また、今後も武漢市と大分市の交流が続くことを願っています。



(送別会での記念撮影)



(日本語科の先生方と)



帰国後の生徒たち

大分市立明野中学校

生野順子